

取材日：2014年9月6日



リウマチ



静岡県

県内全域に標準医療を行きわたらせる、 リウマチ専門医が集ったネットワーク。

Point of View

- ① 医局、病院の垣根を越えた県内全域ネットワーク
- ② ネットワークから枝分かれした、さらなるネットワークの構築
- ③ 「静岡リウマチネットワーク」のブランド化
- ④ どこにいても良いリウマチ医療を受けられる体制

浜松医科大学医学部附属病院免疫・
リウマチ内科長／静岡リウマチネットワーク代表幹事

小川 法良先生

市立御前崎総合病院院長

大橋 弘幸先生

はやかわクリニック院長

早川 正勝先生

やすひろクリニック院長

太田 策啓先生

医療法人社団真愛かおり会
こぼり整形外科クリニック院長

小堀 かおり先生

質の高い医療資源の 有効的な活用を

「静岡リウマチネットワーク」は2007年に立ち上がった。県内に多く点在するリウマチ専門家をネットワーク化し、関節リウマチなどの難病に悩む患者がいつでも安心して受けることのできるリウマチ診療の実現をめざしている。同時に、常にリウマチ診療体制のレベルをアップさせるために、定期的に医療関係者向けの勉強会、講演会、研究会、症例検討会を開催する。

事務局を浜松医科大学医学部内科学第三講座内に置き、ホームページ (<http://www.hama-med.ac.jp/docs/rheumatism/>) を開設。国内外の最

新の診療情報を公開するとともに、患者に向けた情報発信もしている。

2014年9月現在、参加施設は県外1施設を含め46施設（西部地区22、中部地区15、東部地区8）となっている。

今回は、同ネットワークの西部地区参加施設の5名の先生方に静岡リウマチネットワークの意義について

語り合っていた。

立ち上げを主導した小川先生が、ネットワーク構想のきっかけについて語る。

「2006年4月に8年ぶりに浜松医科大学に戻り、静岡県でリウマチ医療に取り組むことになったとき、あらためて県内にリウマチ専門医を含めたリウマチを診られる先生が多く、同



左から小川先生、大橋先生、早川先生、太田先生、小堀先生

時にそれらの医療資源を有効に活用しなければならぬと感じました。意欲も能力もある医療機関や医師、メディカルスタッフの力をネットワーク化すれば患者利益はこれまで以上に大きくなると確信し、諸先輩方にも相談しながらネットワーク構築の作業を開始しました。

設立に際しては、①県内どこにいても標準的なリウマチ治療が受けられる環境醸成、②早期発見、早期治療が県内全域で実現できる、③病状の進行を遅らせ生活の質向上と予後の改善を実現する、の3つを目標に掲げました」(小川先生)

浜松医科大学医学部附属病院OBである大橋先生は、小川先生からの相談を受け、ネットワーク構想の実現に助力した。

「静岡県内にはリウマチ専門医も多く、懇話会や研究会を通して専門医間の交流も活発ですが、目的を一にし、総合的な機能をめざしたネットワークはありませんでした。そういう意味で、小川先生の構想には心から賛同できました」(大橋先生)

自己研鑽を促し 医師と医師をつなぐ

実地医家の3名の先生方が、それぞれに静岡リウマチネットワークの意義について語る。「まず、静岡リウマチネットワークの勉強会や研究会を通じて、主に内科



【資料1】

静岡リウマチネットワークに参加する46施設

西部地区	
浜松医科大学医学部附属病院	おおわら内科
市立御前崎総合病院	後藤内科医院
聖隷浜松病院	はやかわクリニック
やすひろクリニック	こぼり整形外科クリニック
藤島クリニック	みゆき内科クリニック
杉山整形外科	市立湖西総合病院
浜松医療センター	聖隷三方原病院
けいクリニック	公立森町病院
浜松赤十字病院	磐田市立総合病院
すずかけヘルスケアホスピタル	まつおか歯科
きもとクリニック	十全記念病院
中部地区	
藤枝平成記念病院	三宅整形外科医院
静岡曲金クリニック	静岡リウマチ整形外科リハビリ病院
大原内科	白鳥内科クリニック
藤枝市立総合病院	城西神経内科クリニック
JA静岡厚生連静岡厚生病院	静岡県立こども病院
長倉整形外科	コミュニティーホスピタル甲賀病院
おとみりウマチ整形外科	竹内内科
ためま街道整形外科	
東部地区	
市立伊東市民病院	佐野内科クリニック
駿東整形外科医院	順天堂大学静岡病院
医療法人社団英志会富士整形外科病院	JA静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院
天間クリニック	フジ虎ノ門整形外科病院
愛知県	
すどう内科クリニック	

(2014年10月現在。静岡リウマチネットワークHPより)

的治療技術の研鑽が果たせる点が意義深いと感じています。現代のリウマチ医療は急速に進歩しており、最新の技術や最新の情報を常にキャッチアップしていきたいです。

また、開業医の立場で関節リウマチ患者を引き受ける際にもっとも頭を悩ませるのが合併症管理で、いざ重度の合併症が起きた際には大きな病院のリウマ

チ科を頼らざるをえません。このようなケースでは、どうしても『合併症を引き起こしたうえに、他者を頼る』わけですから、なんとも言えない後ろめたさがついてまわるものですが、静岡リウマチネットワークのメンバーとして面識のある先生へのお願いは、かなり心理的負担が軽減されます。

同ネットワークは、私のリウマチ医療の質を支えてくれている存在だと思っています」(早川先生)
「私は今回の出席者で唯一、整形外科

医であり、関節リウマチの患者さんの数が増えていく状況に背中を押されてリウマチの勉強を深めてきました。静岡リウマチネットワークがさまざまに提供してくれる学びの場は非常にありがたいです」(小堀先生)

「静岡リウマチネットワークの研究会では、臨床医にとって身近なテーマや症例がとり上げられ、具体的なスタディを展開してくれる点が大きな特徴です。

また、この活動で有意義なのは、多くのリウマチ医療に取り組む実地医家の先生方と知り合えるところです。『顔の見える関係』が着実に増え、患者さんの転居による転院などでもスピーディに対応できるようになってきました」(太田先生)

医局の隔たりなく 自由闊達に活動できる風土

このネットワークには、特徴的な風土があるという。

「静岡県は日本列島の東西のほぼ真ん中に位置するせいか、県内の病院を見わたしても、日本中のさまざまなところの医局出身者が活躍しています。これは、静岡県こそその特色であり、誇るべき伝統と言っているのではないでしょう。

静岡リウマチネットワークもその伝統を引き継いだかのように、浜松医科大学が設立した組織でありながら、同大学出身者が幅を利かすようなところがありません。県内全域のさまざまな大学医局出身者が伸び伸びと活動しています」(小堀先生)

「小堀先生のご指摘は私も強く感じる場所です。これは、県民性なのでしょう。静岡県には、どこから来たどんな人でも、分け隔てなく受け入れる風土があります。

何かを強制するのではなく、志あ

【資料2】

関節リウマチ診療連携ガイドライン

る方に参加を呼びかけ、ともに行動しようと考えた静岡リウマチネットワークの発足と運営に関しては、それが大きくプラスに作用しました」(小川先生)

医療連携が充実 ネットワークの枝分かれも

静岡リウマチネットワークで生まれたつながりは、医療連携の充実も促進している。

「ネットワーク参加医療機関との間には、循環型医療連携を形成しています。寄せられた相談には最優先で耳を傾けますし、合併症等で紹介があった患者さんは決して断りません」(小川先生)

「市立御前崎総合病院は、地域最大の病院ですが、悪性リンパ腫発症やリウマチ患者の妊娠などの難しい事例では、躊躇なく小川先生に相談します」(大橋先生)

もちろん、浜松医科大学は静岡リ

ウマチネットワーク参加メンバーを優遇しているわけではない。

「非メンバーのご開業の先生方とも、紹介、逆紹介の交流を推進しています。浜松医科大学医学部附属病院へのリウマチ患者集中を是正する意味でも、症状の安定した患者さんは地域の先生方に引き受けていただけるよう働きかけています」(小川先生)

静岡リウマチネットワークは、生物学的製剤導入を含めた標準医療が実施可能なリウマチ専門医のいる医療機関が集った組織だが、参加メンバーたちのためだけに動く互助会ではない。参加したメンバーそれぞれが、地域で他の病院、診療所と医療連携し、ネットワークから枝分かれした、さらなるネットワークが構築され、関節リウマチ患者をカバーしている。

「本日、4名の先生方とお会いして語り合う中で、もっとも有意義だったのは、皆さんがしっかりと地域の先生方と交流して、病診連携、診診連携が実現しているのを確認できた点です。

ネットワークの枝分かれに関して、どのような働きかけが必要か思案することもしばしばでしたが、少々杞憂だったようです」(小川先生)

病院信仰の弊害を 是正する役割にも期待

早川先生は、静岡リウマチネットワークの果たす役割についてこう考えている。

「一般市民の多くは、診療所よりも大病院のほうが安心と考えがちで、リウマチ医療に関しても例外ではありません。当院でも少々治療効果が見えづらくなっただけで、『大きな病院に行きたい』と懇願され、病院への紹介を決めるケースが年に何例かあ

ります。

静岡リウマチネットワークという名前が県民に広く認知され、言わば安心のブランドとなれば『近隣の診療所でも安心して受診できるのだ』と思え、不要に遠方の医療機関に通わなくても良くなり、結果的に患者利益が膨らんでいくと期待しています」(早川先生)

「静岡リウマチネットワークで、専門医と専門医、専門医と非専門医、内科医と整形外科医がともに力を合わせ、切磋琢磨していけば、早川先生がおっしゃるような社会からの認知も自然に形成されていくでしょう」(小堀先生)

一般医の参画を得るために いっそう努力をつづける

非リウマチ専門医の参画は、静岡リウマチネットワークの今後の課題のひとつだ。

「現在、参加している医療機関だけでは、県内の全患者を引き受けるのは無理でしょう。早晚、各医療機関への患者さんの集中が問題になるはずですよ。

問題の打開の鍵は、ご開業の一般医の先生方に参加していただき、症状の安定した患者さんを引き受けていただけるようにすることです。

参加していただきたいのは、私個人のイメージとしては、『近隣の住民に関節リウマチの患者さんがいて、請われて引き受けるようになった整形外科のご開業の先生』です。必要に迫られたときリウマチに興味を持ち、勉強する意欲もある実地医家の先生の参画が得られれば、静岡リウマチネットワークのさらなる発展が見込めると考えています」(大橋先生)

同ネットワークの拡大を願いつつ小川先生が今後の展望について語っ

てくれた。

「リウマチ因子が陰性を示すリウマチ症例に代表される診断の難しさの一方に、生物学的製剤に代表される、きわめて著しい治療技術の進歩があるのがリウマチ医療の特徴です。

ゆえに、何より早期診断、早期治療の大切さを医療従事者と患者さん双方に向けて発信していかなければなりません。

そのような啓発活動も含めて、静岡リウマチネットワークがどのような貢献をしていけるかを真摯に見つめ、取り組み続けていくことが大切と考えています」(小川先生)

浜松医科大学医学部附属病院

〒431-3192
静岡県浜松市東区半田山1-20-1
TEL：053-435-2111

市立御前崎総合病院

〒437-1696
静岡県御前崎市池新田2060
TEL：0537-86-8511

はやかわクリニック

〒430-0901
静岡県浜松市中区曳馬5-17-9
TEL：053-412-5070

やすひろクリニック

〒432-8051
静岡県浜松市南区若林町194-1
TEL：053-415-1005

医療法人社団真愛かおり会 こぼり整形外科クリニック

〒433-8108
静岡県浜松市北区根洗町548-2
TEL：053-438-3133